

建築専門部会会議録

記録日

平成30年4月7日

記録

スポーツ・文化課：鈴木

会議名称 第14回 特別史跡新居関跡建築専門部会

開催日時 平成 30 年 4 月 7 日 (土) 13 時 0 分 ~ 15 時

開催会場 湖西市民活動センター2階 大会議室

出席者 委員：箱崎委員長・大野委員・溝口委員・丸山委員

事務局 スポーツ・文化課 渡辺教育長・鈴木次長・岡本・高橋・鈴木・鶴（オブザーバー）宇佐美

他：中田・曾根田（ウッドサークル）

1. あいさつ（教育長・・財政難のおり予算内に事業がおさまるよう考えてほしい/委員長より） 委嘱状配布・自己紹介

2. 議題

(1) 女改之長屋の実施設計図面の確認（耐震補強案等について）

- ・ウッドサークルが実施設計図面の説明
- ・前提→復元構造を改変せず、将来的に取り外しのできる補強とする。
補強案7案を提示。今後活用をするために、補強をしないではいけない。

（構造意匠から3.4.5案から選択）

委員 説明した4案がベストだと考える。

委員長 土壁を補強したらどうか。

ウッド これ以上土壁側を補強しても耐震はあがらない。

委員 柱に鉄骨を抱かせる方法は？

ウッド 木造を倒れたときに受け止めるのは有効であるが、構造の一部としてはむかない。

委員 2案の地域係数を守らないといけないのか？

ウッド 静岡県で行うならば守らないといけない。厳密化しているようである。既存建物ではないので。

委員 4枚のうち両脇の建具ひきつき窓を構造フレーム（鉄板）を入れる方法はどうか。

ウッド 防災協会の評価方法がない。第3者機関に依頼しないとけない。

柱と柱の間を補強しないと評価されない。

委員 納戸の壁の半分を補強して建具らしく見せる方法はあるが、手間とお金がかかる方法である。

委員 意匠優先か、復元優先かを考えないとけない。

委員長 前提は復元が優先。その前提でいいですね。

全委員 同意。

委員長 案4は納戸の上の部分空いていて筋交いが見えるのが問題なくらいか。

委員 案4の補強柱を黒く塗り、目立たないようにして、気づく人だけが気づく程度でいいのでは。

白木にして強調しなくてもよい。

委員 前回は、上の部分は検討していない。上は空いているか

委員 押入れの方立（横に連続した窓の間に設けられた垂直の棧）は必要か。上まで壁でいくか、吊り束（鴨居・天井などを支える短い柱）にするか。

ウッド 絵図には記述がない箇所。

委員 2間通して吊って4枚で吊り束。裏に補強。仕切壁なし

ワークショップをやるときに、仕切りなく長机を収納できる方が便利。

委員 天井はほこりだまりで、板壁を貼らない。

京都は鉄骨と木材の合わせに結露がでて、ボトルが緩むことがあった。

委員長 補強用の柱とつなぎ材の色は？

委員 復元したものを少し違う色にする。黒の補色でもいいのでは。

委員 無理して違う色にしなくてもいいのでは。別の色にすることで余計に目立つ。白木のままで。

委員 見えてくる高さがわりと目立つので、説明ガイドにより静岡県の耐震補強による補強という説明でよい。

委員長 自然のままとする。

委員 今後の整備（船会所・土蔵）の考え方も今回と同様の復元構造を優先で整備をしていく事でよいか。

市 よい。

(2) 女改之長屋の色について

ウッド 仕様帳から柵だけでなく、建築物についても墨塗りとする。女改の外壁・建具も墨塗り
軒裏・垂木の内側・破風板の内側（下面にあたる場所）を黒く塗るかどうか。

委員長 面番所は？

ウッド 今となってはわからない。仕様帳には墨が形上されている。

委員 雨ががり対策とするなら、軒下は塗らない

委員 黒く塗るのは雨がかりの防腐効果か。

委員 黒は武家風。町屋では漆喰。防腐効果ではなく示威的な目的なら、すべて黒く塗るのもあり。幕末の大名屋敷の長屋の写真事例を確認したほうがよい。

ウッド 大御門はすべて黒。軒裏については分からなかったため塗った。

委員 雨かがり対策ですべて塗るのも、土壁が崩れなくてもよい。

委員 時期的には瓦葺が普及。こけらは修理時点の下地ではないか。

ウッド そぎ板とあり、面番所の裏側もこけらではない。

例・池田家・寛永寺・彦根城馬小屋・佐倉の藩庁・群馬七日市富岡藩の藩邸

(関東のものを調べる) 川崎の町屋は上は漆喰。

屋は 箱根関所の軒裏は塗っていない。掛川城・川越の付属施設などを調べてほしい。新潟の新発田藩足軽長白木。気賀の関所は史料によって復元したのか。

委員 一般的には漆を裏甲（軒先の茅負の上に乗せる化粧板）までぬって、墨塗り。

墨を下から塗っていくとどこまで塗るか。

防腐効果と関所という威風を考慮する。

委員長 調べてもらい、一覧表にしてメール審議とする。根拠が明確になれば塗る。

(3) 瓦の形状について

鬼瓦の形状について、関所史料館に収蔵されている文化年間の鬼瓦を確認。

前回、ヒレの形は、サザエさんくらいでと言っていたが、この瓦は特殊。現状案でいく。

○その他【15時から関所現地確認～15時45分終了】

・面番所の瓦・軒裏を確認

・裏御門の確認・塗装の剥げについて、ワークショップをやって市民を巻き込んだほうがよい。

市民が塗装することで、愛着がわく施設になる。